

# 事例から考える リスクマネジメント

## 本日の授業内容

1. リスクへの備え
2. もしもリスクが起きてしまったら・・・
3. 私的保障
4. まとめ

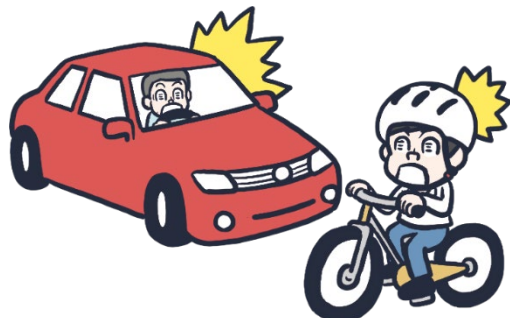
# 1. リスクへの備え

～ 3つの保障を理解しよう～

# リスクとは何か

リスクとは…

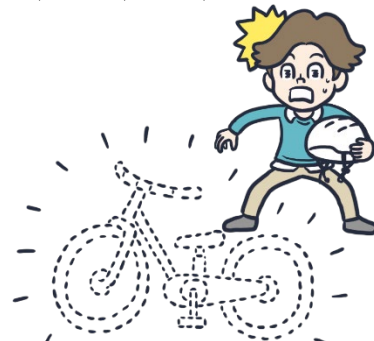
**起きてほしくないこと**で、起きるとお金がかかること



交通事故



病気で入院



自転車の盗難



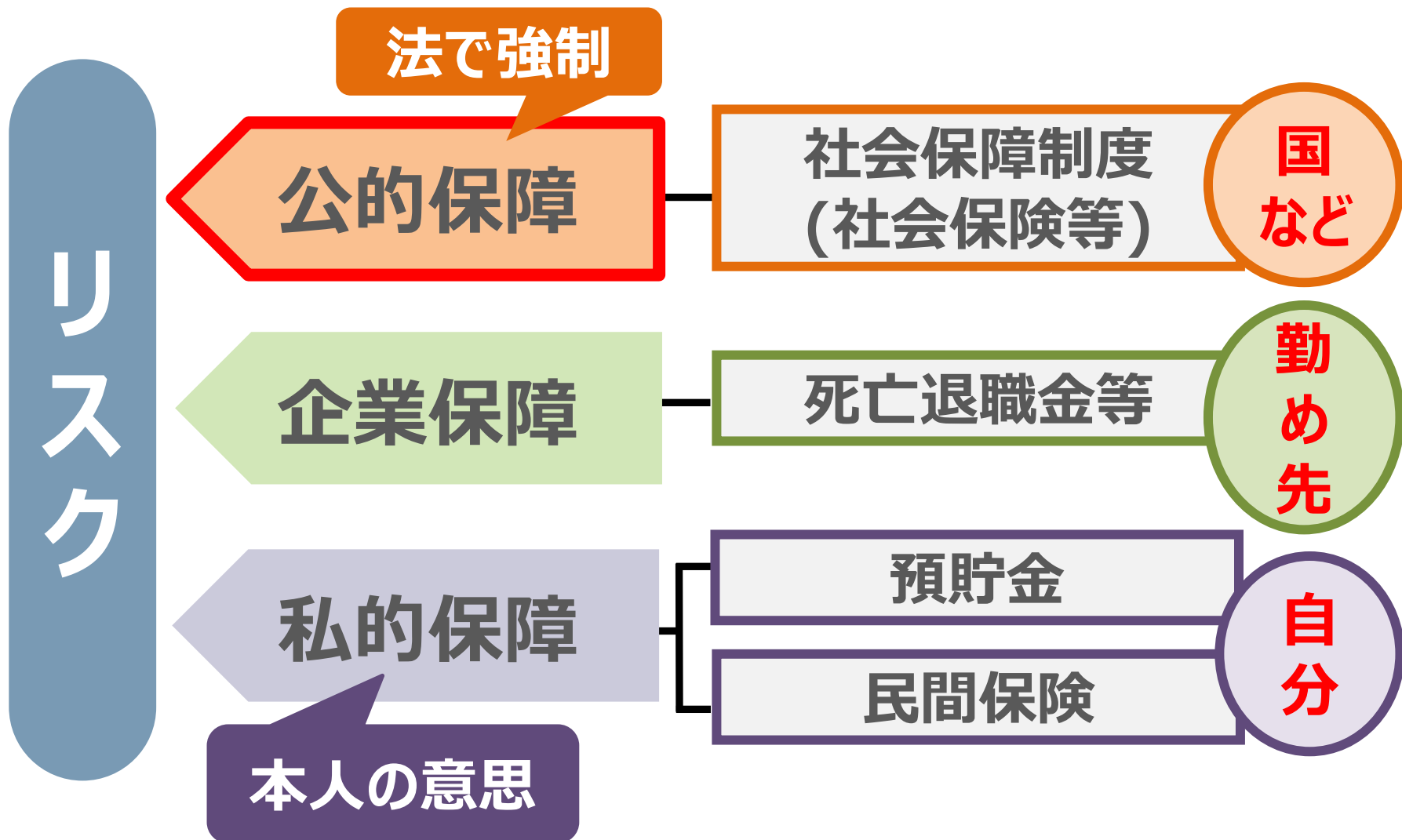
スマホを破損



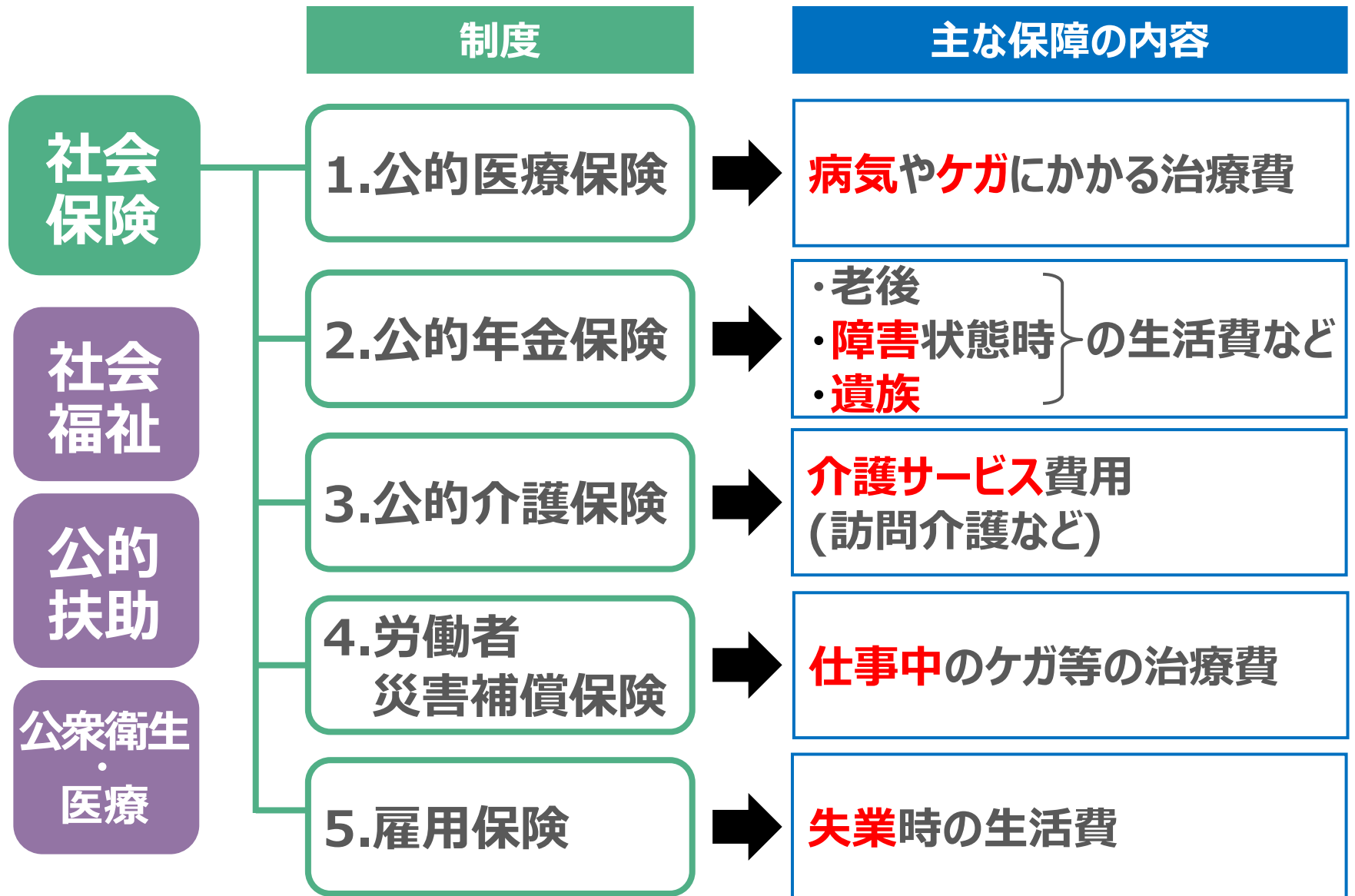
財布を紛失

# リスクに備える3つの保障

保障：もしものときに生活を守るもの



# 社会保障制度の概要




## 2. もしもリスクが 起きてしまったら・・・

# 事例①

## 足の骨折で入院・手術したら

Aさん(23歳)の場合



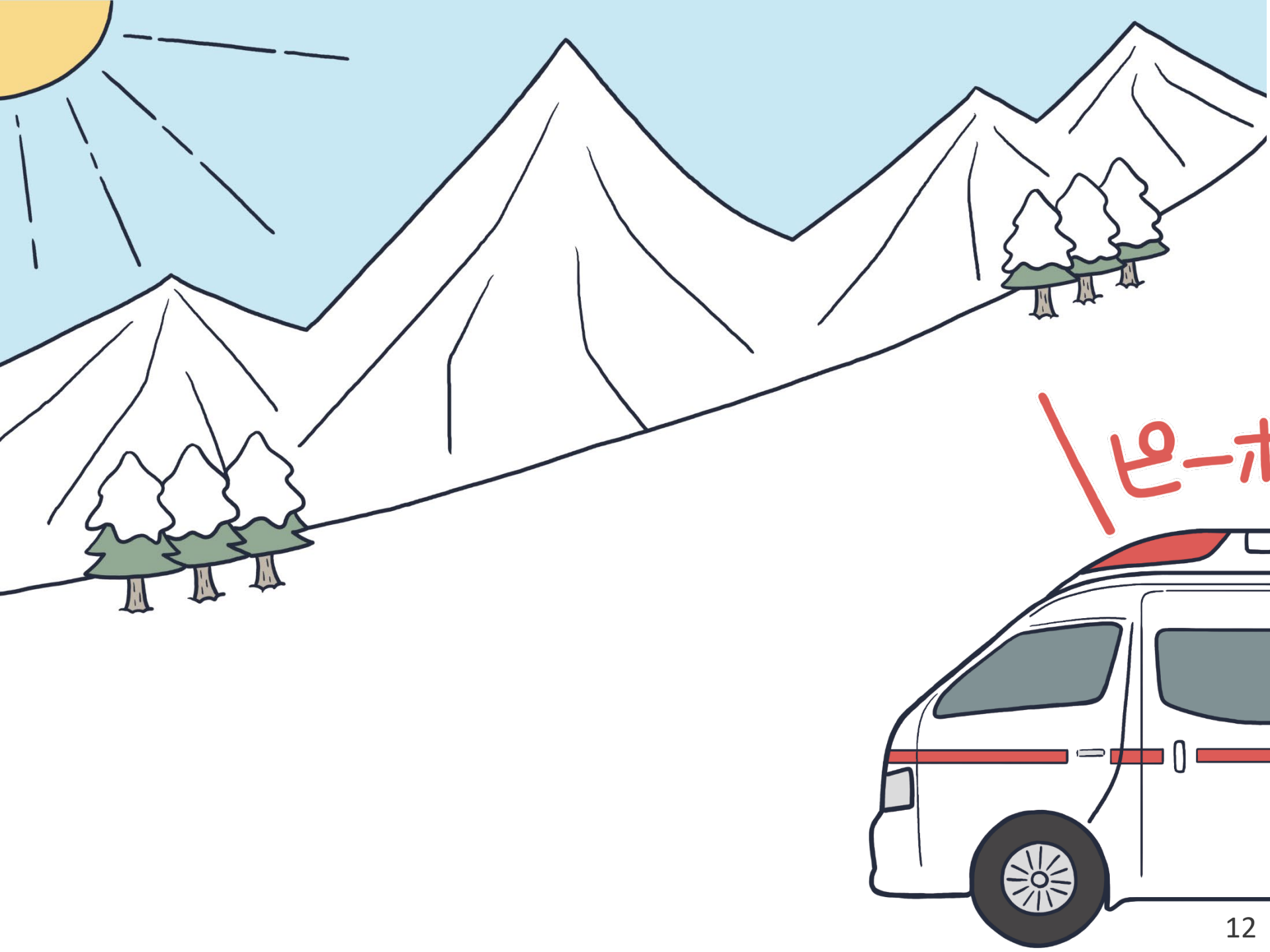
今日は沢山  
すべるぞ〜！







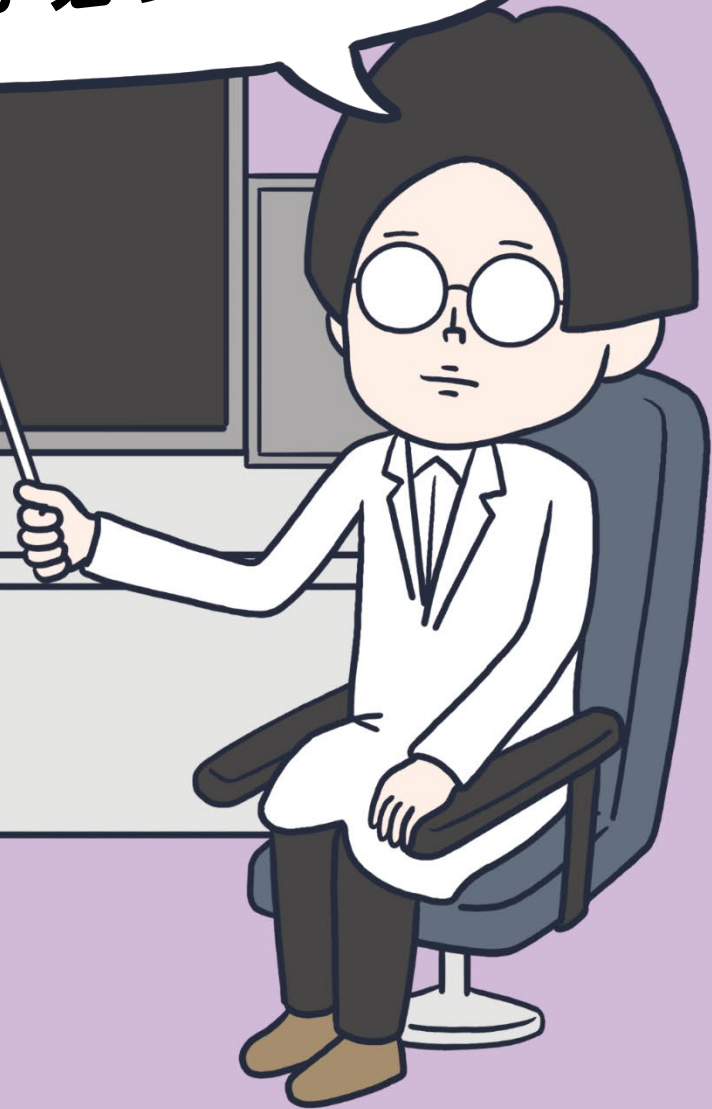




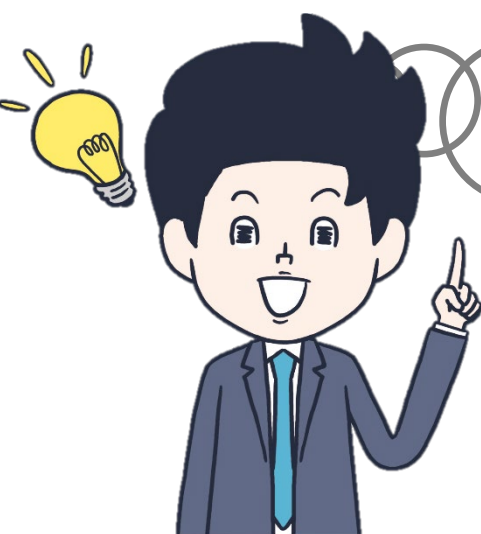
ううっ...



これは...  
手術が必要ですねぇ



## 骨折をしたら・・・ どんなことにお金がかかるか考えてみよう



入院、手術、薬にお金がかかるかな？入院している間の生活費も必要？10,000円くらいかな？

# ①必要となるお金(事例①)

★足の骨折で手術が必要となり、22日間入院した事例

—

## ①必要となるお金

かかった医療費	約180万円
その他	約8万円
<b>合計</b>	<b>約188万円</b>

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2022年10月改訂版)をもとに作成

※その他・・・入院中の衣類・日用品やお見舞いに来た家族の交通費・食費等



## ② 入ってくるお金(事例①)

+

### ② 入ってくるお金

公的保障 (公的医療保険)	約168万円
------------------	--------

---

合計	約168万円
----	--------

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2022年10月改訂版)をもとに作成

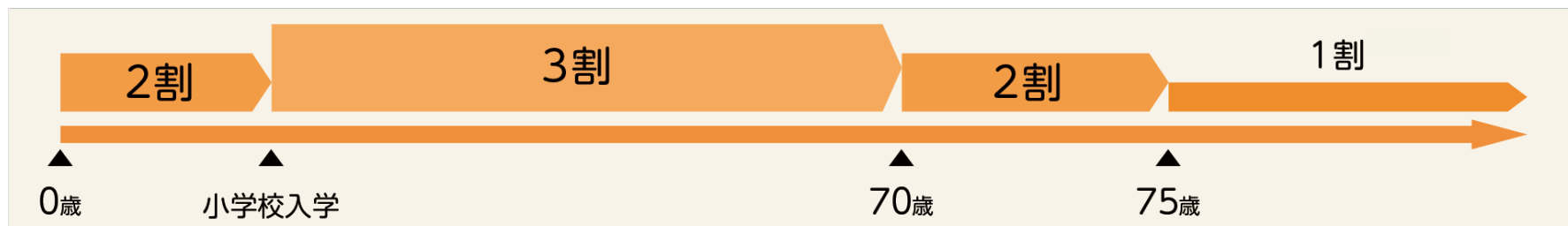
ケガや病気で入院したときには、国などから受けられる公的保障として、「**公的医療保険**」があります。



## ② 入ってくるお金(事例①)

### ● 公的医療保険 (公的保障)

#### 年齢による自己負担の割合



自己負担は**3割**(小学校入学後～70歳になるまで)

自己負担が高額な場合は「高額療養費制度」を活用できる

事例の場合、受けられる保障は合計約**168万円**

### ③自分で準備する必要があるお金(事例①)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。



−

#### ①必要となるお金

かかった医療費	約180万円
その他	約8万円

---

合計	約188万円
----	--------

+

#### ②入ってくるお金

社会保険 「公的医療保険」	約168万円
------------------	--------

---

合計	約168万円
----	--------

=

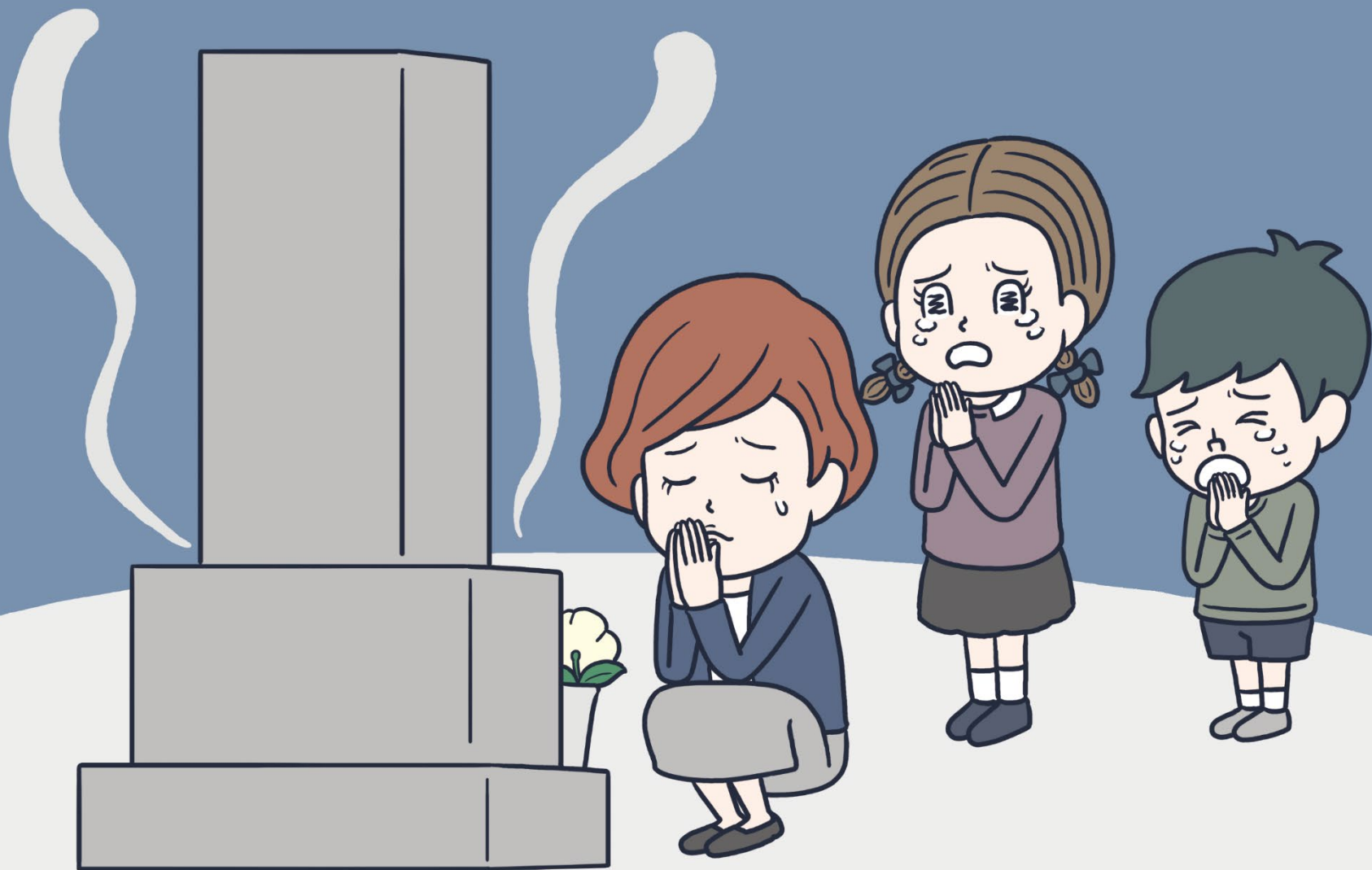
③自分で準備する必要があるお金  
**約20万円**

## 事例②

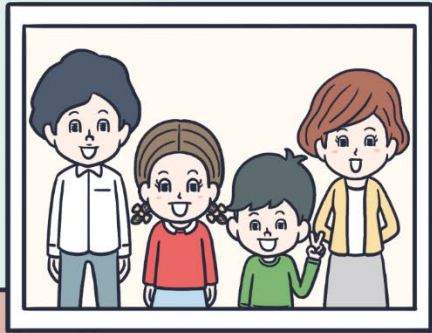
もしも亡くなってしまったら

Bさん(45歳) 妻(42歳)

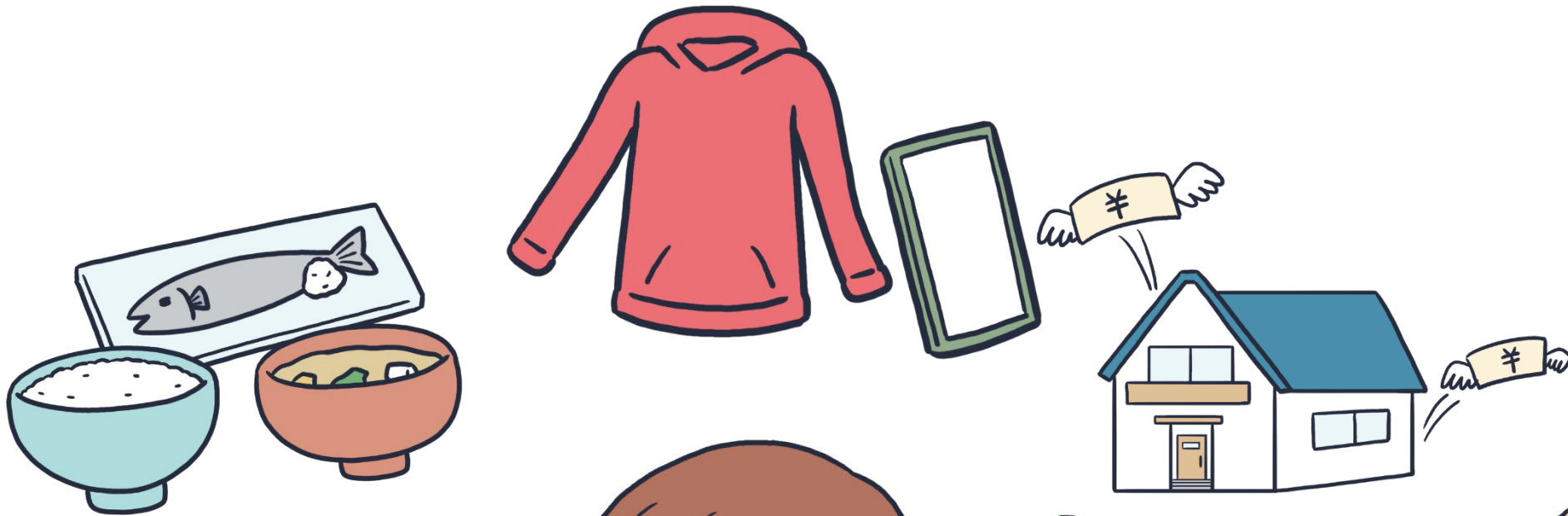
子ども2人の場合



夫の収入が無くなって、  
私の収入だけでは...



# 生活費もあるし

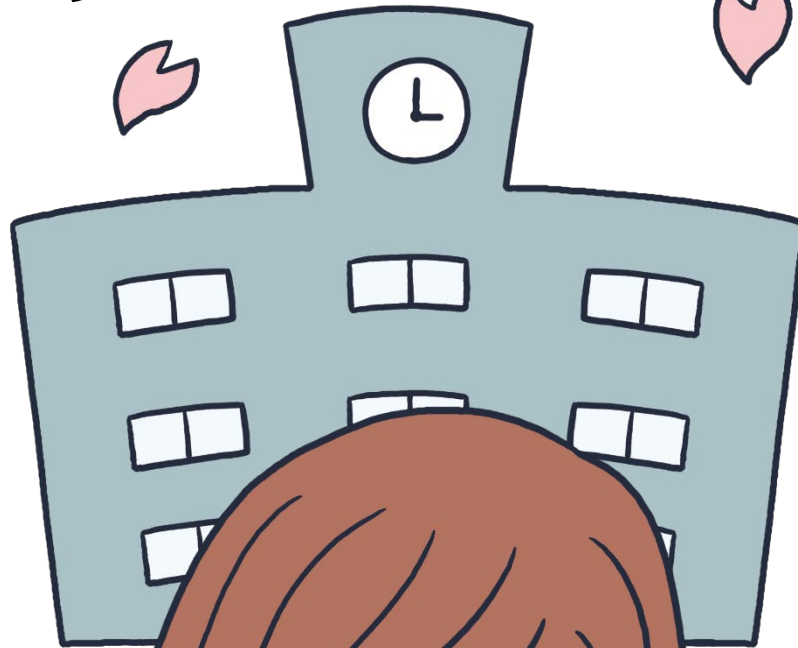
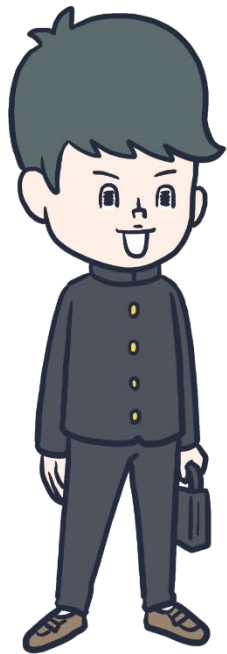


あれも

これも



# 教育費もあるし



あれも

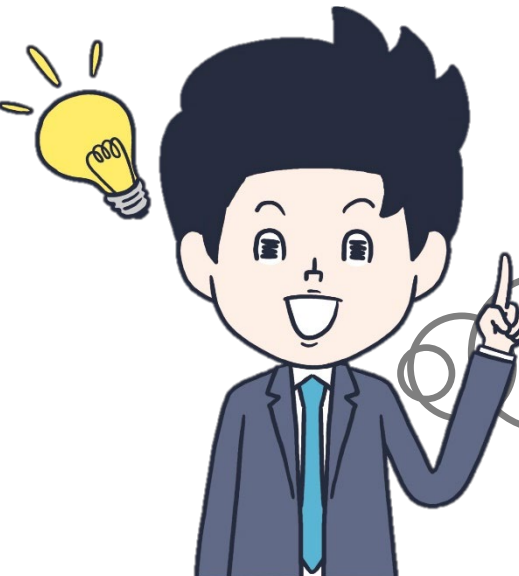
これも

これから一体  
いくらかかるのかしら？





もしもBさんが亡くなってしまったら・・・  
「何」に「いくら」かかるか考えてみよう



生活費や教育費・住まい  
にかかるお金とかかな？  
お葬式のお金も必要？  
1,000万円くらい  
かかるのかな？

# ①必要となるお金(事例②)



## ①必要となるお金

生活費	約9,320万円
子どもの教育費	約2,250万円
その他	約1,590万円
<b>合計</b>	<b>約1億3,160万円</b>

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2023年11月改訂版)をもとに作成

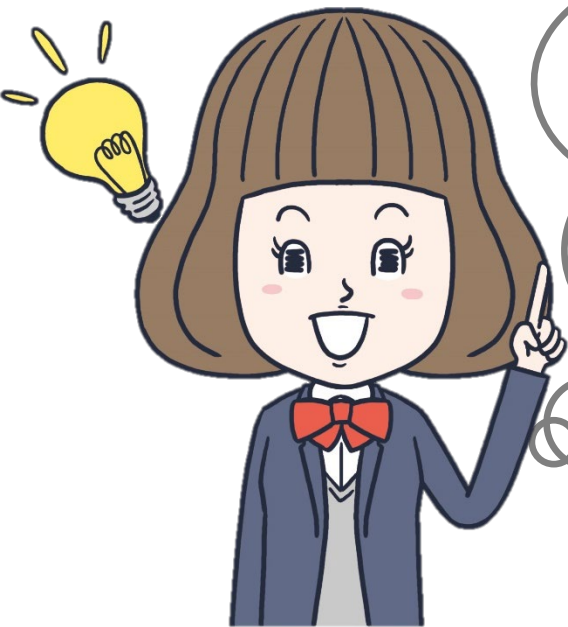
※その他・・・住居修繕費用や  
子ども2人の結婚費用、葬儀費用など



考えてみよう

**必要なお金（約1億3,160万円）は  
どうやって準備するか考えてみよう**

**こんな大金どうやって  
準備するんだろう？  
預貯金で払える金額  
なのかな？**



## ② 入ってくるお金(事例②)

+

### ② 入ってくるお金

公的保障 (遺族年金)	約6,260万円
企業保障	約400万円
妻の収入	約2,340万円
合計	約9,000万円

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2023年11月改訂版)をもとに作成

国などから受けられる公的保障として  
公的年金には、  
**「遺族年金」**があります。

### ③自分で準備する必要があるお金(事例②)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が「自分で準備する必要があるお金」。



#### ①必要となるお金

生活費	約9,320万円
子どもの教育費	約2,250万円
その他	約1,590万円

---

合計 約1億3,160万円

#### ②入ってくるお金

公的保障	約6,260万円
企業保障	約400万円
妻の収入	約2,340万円

---

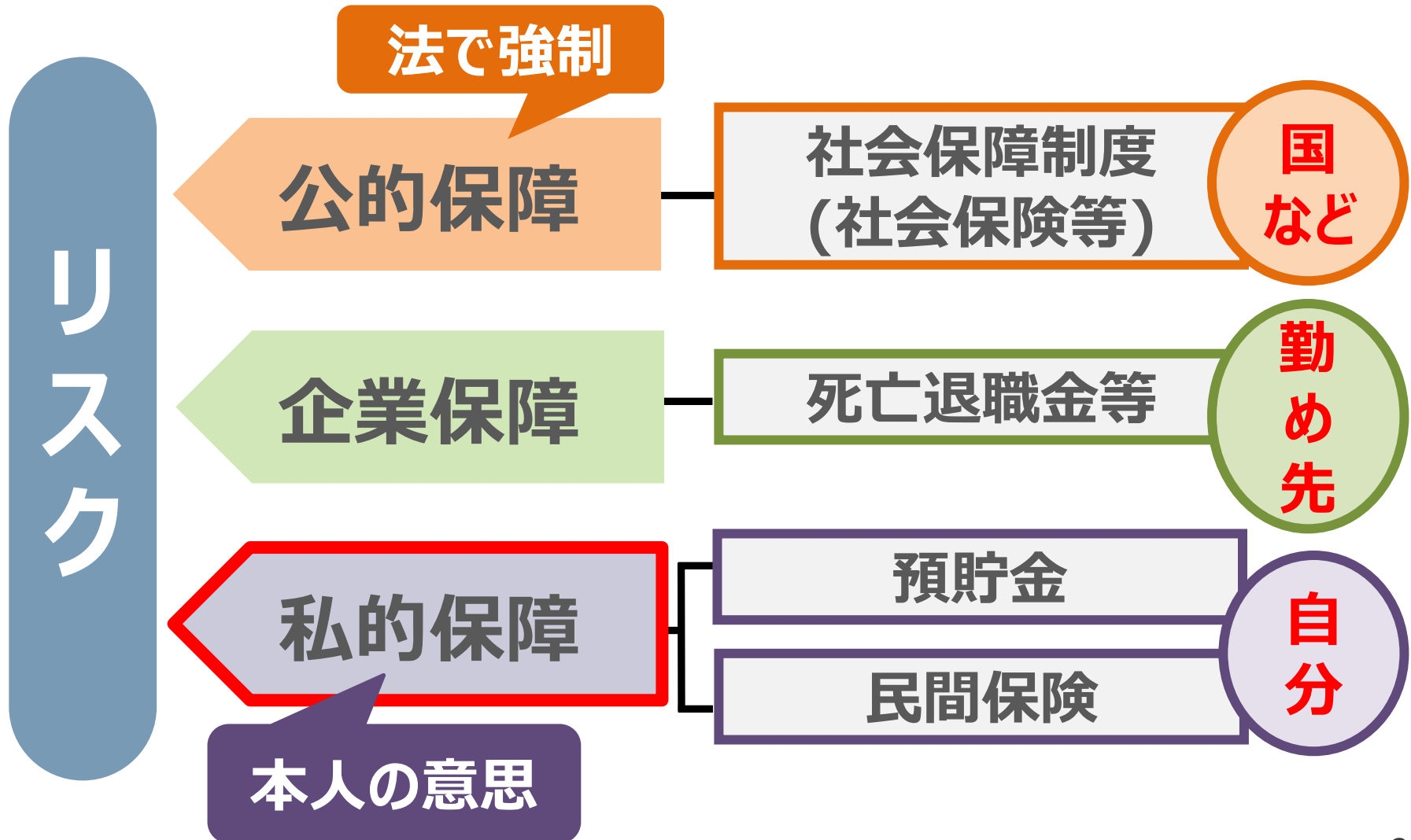
合計 約9,000万円

#### ③自分で準備する必要があるお金

**約4,160万円**

# リスクに備える3つの保障

## 保障：もしものときに生活を守るもの



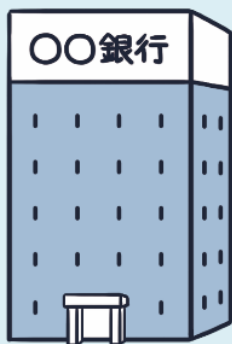
# 3. 自分で準備する 「私的保障」

# 預貯金と民間保険①

## 預貯金



お金を預ける



お金を引き出す

お金が必要になると

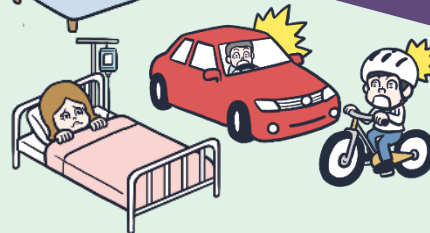
## 民間保険



お金(保険料)を支払う



お金(保険金)を受取る



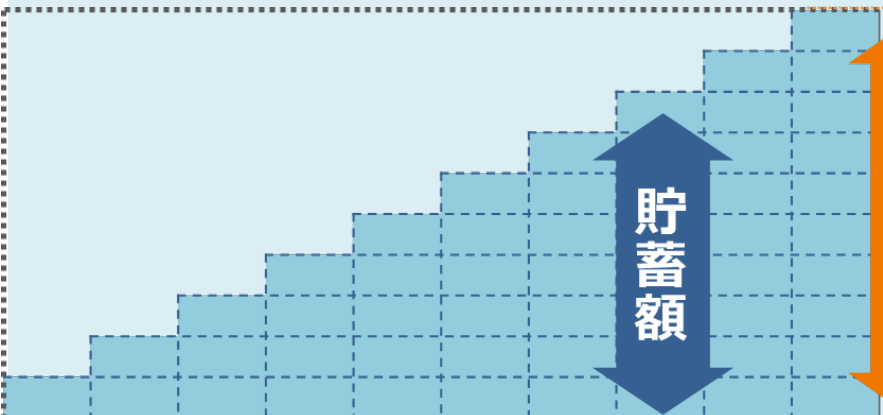
リスクが起これば



# 預貯金と民間保険②

## 預貯金

目標額

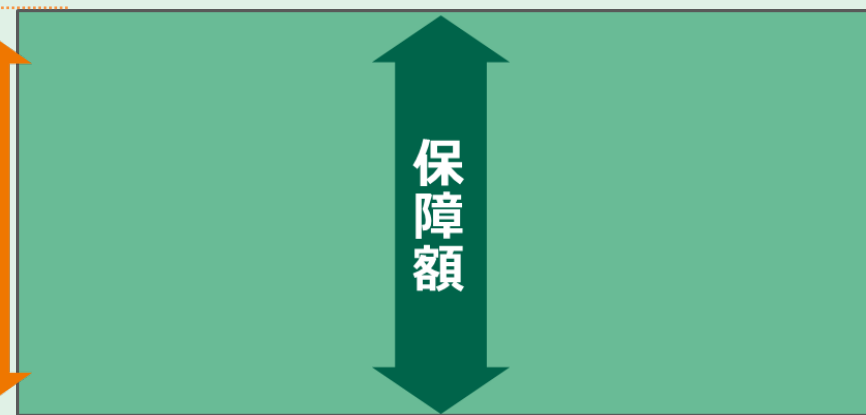


30歳 40歳  
貯蓄額は毎年100万円（総額1,000万円）

特徴

**さまざまな目的の  
ために貯める**

## 民間保険



30歳 40歳  
保険料は毎年約3万円（総額約30万円）

特徴

**特定の損失  
に備える**

注 ①預貯金は利子や税金などを考慮しない金額。②保険料は男性（30歳）契約で、保険期間10年、保険金額1,000万円の定期保険の例。実際の保険料は、保険種類や契約内容、生命保険会社によって異なる場合があります。

# 「預貯金」と「民間保険」の違い③

## 預貯金

### メリット

- 貯めたお金は自由に使うことができる。
- 途中での引き出しや貯めるペースが自由。
- 預けた金額に応じて利子がつく。

### デメリット

- 途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、**必要な**金額が貯まっているとは限らない。

## 民間保険

- 途中いつでも、病気やケガ等のリスクが発生した場合に、あらかじめ**決められた**金額を受け取ることができる。

- 保険の種類によっては解約しても支払った保険料の全額が戻ってこない。

# 保険のしくみ①

100人の部員がいる  
サッカーチーム



毎年  
5人の部員が  
骨折を  
している



対策をしても  
ケガは減らない...



治療にかかる費用は  
1人10,000円



## 保険のしくみ②

全員で治療にかかる  
費用を準備すれば  
よいのでは？



治療にかかる費用は  
全員分で  
 $10,000\text{円} \times 5\text{人}$   
➡  $50,000\text{円}$



$50,000\text{円} \div 100\text{人}$   
➡ 1人あたり  
年間500円



骨折した生徒は  
 $10,000\text{円}$ を受け取り、  
治療費にあてる

## ケガに備えるために……

それぞれが  
出し合う費用



×



100人



¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000



骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、  
治療費を支払える

# 生命保険と損害保険

## 生命保険

対象

人

受取額

あらかじめ約束した  
金額  
(定額給付)

備えられる  
リスク

- 死亡
- 病気・ケガ
- 老後
- 介護



など

## 損害保険

モノ

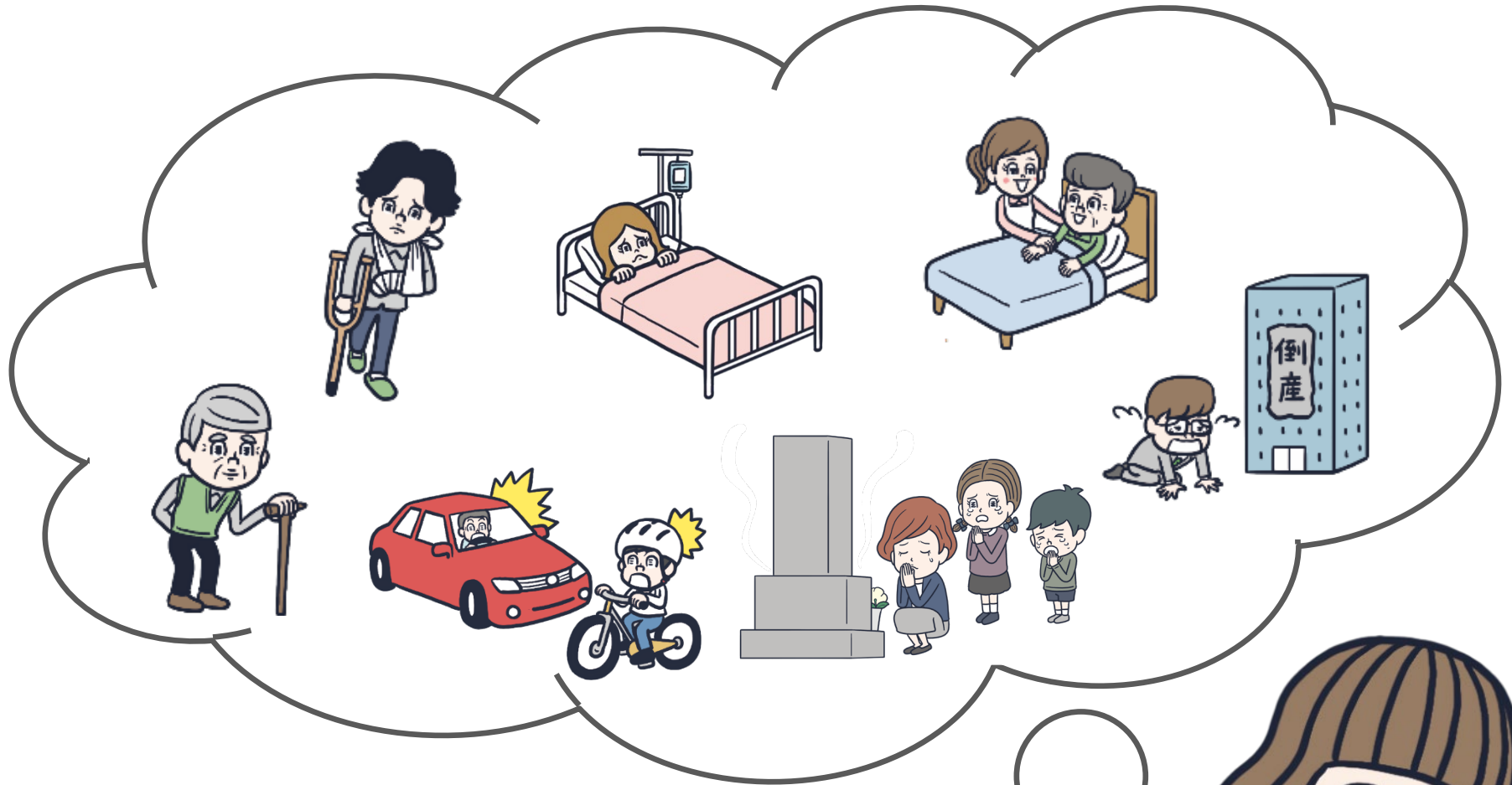
事故により発生した  
損害額  
じっそんてんば  
(実損填補)

- 交通事故
- 火事
- 台風や地震



など

# 状況に応じたリスクマネジメント



家族構成や年齢などによって、  
身の回りにあるリスクは異なります。  
状況に応じてリスクへの備えを考えよう。



# 4. まとめ



## まとめ

- ① リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- ② **公的保障**と**企業保障**で不足する部分を**私的保障**で補う。
- ③ **預貯金**と**民間保険**にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。
- ④ 家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なる。  
状況に応じて**リスクへの備え**を考えよう。